神奈川県立 公文書館だより

第53号
編集発行　神奈川県立公文書館
〒241-0815　横浜市旭区中尾1－6－1
電 話 045（364）4456
FAX 045（364）4459
https：//archives.pref.kanagawa.jp/
休館日：月曜日、祝日（月曜日と重なる場合は翌日）、年末年始（12月28日から1月4日）

企画展示「神奈川県と博覧会 ～レトロとモダンの歴史旅～」

令和七年七月十八日～九月二十八日

今年は大阪万博が開催され、再来年の令和九年には、県内にて「GREEN×EXPO 2027」（国際園芸博覧会）が開催されます。

こうした博覧会が盛り上がりをみせるなか、さらに「GREEN × EXPO 2027」開催の機運を高めるべく、神奈川県と博覧会の歴史について振り返ってみました。

■明治期から大正期の博覧会

日本の近代化がすすめられていく過程で、博覧会は殖産興業の観点から開催されました。その代表は内国勧業博覧会で、明治期を通じて全五回開催されました。全国各地から出品者が集まる中、神奈川県は特に農業分野からの出品が多く、当時の主要産業だったことがうかがえます。博覧会への出品や受賞歴は、その製品の購買力にもつながるため、大正時代には、全国各地で地域博覧会が開催され、博覧会の時代とも呼ばれました。

■復興と博覧会

博覧会が開催されるきっかけには、様々なものがあります。このうち、大正末から昭和前期にかけて象徴的だったのが、昭和十年（一九三五）開催の「復興記念横浜大博覧会」と、同二十四年（一九四九）開催の「日本貿易博覧会」でした。前者は関東大震災、後者は戦時中の空襲により壊滅的被災地となった横浜の復興を記念して開催されたものでした。これらの博覧会からは、国内屈指の港湾都市ヨコハマの、産業と国際貿易の振興と、未来に向けてのさらなる飛翔を誓う、当時としては非常にインパクトのあった博覧会でした。

■戦後の博覧会

戦後の高度経済成長期を象徴したのは、昭和四十五年の大阪万博でしょう。アジア初の万国博覧会で、天皇・皇后両陛下が行幸啓された際の「お召列車」が、当時大きな話題となったことを覚えておられる方も多いでしょう。神奈川県はここで、県のPRや特産品の実演製造・販売等を行いました。

バブル期には、全国各地で開催される地方博がブームとなります。平成元年、横浜市制百周年・開港百三十周年記念事業として、横浜博覧会（YES'89）が、みなとみらい21地区で開催され、現在その跡地にはランドマークタワー等が建てられ、今もシンボル的存在となっています。


展示風景

■おわりに

明治から現代までの博覧会を、「神奈川ニュース県政版」の映像も交えて紹介し、遠い過去の話だけでなく、今も県民のみなさんの記憶に残る、思い出の一コマとして懐かしんでいただけたかと思います。

（資料課　山本順也）

公文書管理説明会

令和七年五月八日、九日、十四日、十五日

県の各所属及び関連法人の職員を対象に四日間の日程で開催した公文書管理説明会は、合計三一三名の参加があり、盛況のうちに終わりました。この説明会の主な目的は、公文書が適切な方法で当館に引き渡されることをより確かにすることです。

当県では、県の機関が収受・作成した全ての公文書を公文書館に引き渡す「全量引渡し制度」を採用しており、年間一万箱以上の公文書が当館に運ばれてきます。当館職員は、その全てを一つ一つ評価選別して、歴史資料として重要な文書を永久保存し、誰でも閲覧し活用していただけるよう管理する仕事をしています。より適切に選別を行うためには、引き渡される文書がルールに則って整理されていることが重要です。

説明会では、引渡し等に係る行政文書の扱いの基本、当館の業務や利用方法を説明し、書庫等の見学を行いました。そこでは、公文書は県民全体の貴重な財産であるという認識を持つことの大切さを強調し、文書を作成した所属における保存期間満了前の適切な整理・保管は、日常業務としても疎かにできないものであることを説明しました。

この説明会は将来に向けて種を蒔く仕事の一つです。電子文書の普及により県庁全体の業務環境は大きく変わりつつあります。今後も内容を工夫しながら実施していきます。

（資料課）



説明会の様子

夏休み親子講座「昭和のこどものくらしとまなび」

令和七年七月二十六日・二十七日

令和七年（二〇二五）は昭和百年に当たる年ということで、今年の夏休み親子講座は、昭和二十から四十年代の小学生の「くらしとまなび」にスポットを当てました。

この時代は、小学生はもちろん、保護者の皆さんにとっても、近いようで遠い時代。給食や学校生活といった身近な題材をテーマに、自分の親や祖父母の生きた時代と現代を比べ、大きく変わっているところを、歴史的公文書や古文書・私文書、写真、動画などの様々な公文書館資料を用いて、親子で探してもらいました。

一番盛り上がったのは、八十年前の小学校の学級新聞に書かれていた「なぞなぞ」。学校だけでなく、家庭生活の様相も現在とは大きく異なるため、当時の小学生には簡単だったかもしれない難題に、親子で格闘しつつ、昔のくらしに思いを馳せてもらいました。

◆八十年前の小学生のなぞなぞ
私ははじめ真黒だったのですが、つぎに真赤になり、今では真白になっています。私は何でしょう。



講座風景

恒例のバックヤードツアーでは、公文書が詰まった文書保存箱を持ち上げたり、書庫の頑丈な防火扉を開けてみたりといった、親子講座ならではのメニューも。終了後のアンケートでは、「どのような施設なのか謎でしたが、この講座に参加して、公文書館がとても重要な役割を果たしていることが分かりました」というありがたいお言葉もいただきました。

当館で過ごした夏休みの一日、いかがだったでしょうか。またの御来館・御参加を心よりお待ちしています。

（資料課　関根豊）

※なぞなぞの答えは巻末を参照。

公文書館のおしごと紹介 公文書の収集

神奈川県の各機関（公安委員会を除く）では、保存期間が満了した公文書等を公文書館に引き渡しています。公文書等は、文書保存箱に入れて引き渡してもらいます。引渡しの作業を、六月から七月、九月から十月に分けて本庁舎や県の出先機関に、公文書館職員が赴き収集しています。

収集の際には、主に次のことに注意して確認をしています。①文書保存箱の数と引継票又は引渡書（以下、「書類」という）の枚数が一致しているか、②書類に記載されている件名と文書保存箱の中身が一致しているか、③文書保存箱に、保存期間、処理済年度、所属名の記載があるか、④保存期間が満了している文書が引き渡されているか（十年・三十年保存文書は、処理済後五年経過しているか）といったことをその収集先で確認します。

収集場所によって、屋外・屋内と分かれており、雨が降らないこと（警報が出ない限り原則実施）暑くなりすぎないことを祈りながら当日を迎えています。また、ほとんどの場所では、当日に文書保存箱を持ち込むため、車両の誘導等の対応も行います。所属の数が多い収集現場は、とても忙しくなります。

他にも、文書を箱いっぱいに詰めていると、箱が変形するなどし、公文書館に運び込まれた後、倒壊することがあります。そのため、該当の所属には、公文書館に来てもらい詰め替えの作業をしてもらうこともあります。

（資料課　大野智代）



屋内の収集風景

職員ペンリレー 新人職員の想い

■新コーナー開設！

今号から始まるこのコラムでは、当館の職員が、公文書館職員になった経緯や動機、働いていて面白いと思ったこと、苦労していること等を綴ります。記念すべき一人目の私は、今年度から古文書担当として勤務しています。主な業務は、当館所蔵の古文書・私文書の整理や、資料の閲覧制限審査、当館開催の展示の企画・準備です。

■当館職員になる前

大学院で日本近現代史を専攻していました。研究テーマは、近代都市における生活困窮者層の病気と医療です。学生の時に経済的余裕がなく、体調を崩してもなかなか医療にかかれなかった経験から、歴史のなかで生きた人々の病気や医療をめぐる実態を知りたいと思ったことが研究の始まりでした。



書庫棚から文書箱を出す筆者

■公文書館で働く理由

歴史資料が好きだからです。資料を通して、当時の人と社会の肌触りを感じたり、そこから新たな視点を得たりするのは、歴史研究の醍醐味の一つです。これまでは研究者として資料館施設を利用する立場でしたが、今度は職員の立場から地域の歴史資料を守り、現代、そして後世に伝えていきたいです。

■不安なこと

腰です（笑）。書庫内を歩き回ったり文書箱を持ち運んだりと意外と身体を動かしますが、二十代でギックリ腰を患ったので、いつか業務中にギックリしてしまわないか不安です…。力仕事はほかの職員に頼むこともあるので、そのぶん自分にできることを精一杯やろうと日々感じています。

（資料課　井ノ元ほのか）

県立公文書館の館長に就任して
「アーカイブズってなに？」

県立公文書館は、県立がんセンターや運転免許センターなど県の機関が集まる二俣川の中尾地区の一角にあります。私はこの四月一日に館長に就任いたしましたが、神奈川県に入庁して三十六年、県に公文書館があることは知っていたものの、訪れたこともなく、具体的に何をするかイメージがないまま着任しました。正面から見た公文書館は、後背地の自然林に囲まれた斜面地に建ち、建物の入口は人工地盤を擁する2階に相当する高さにあるため、覗いたぐらいでは中はうかがい知れません。また、歴史的公文書や古文書を収蔵する書庫には窓がなく、知らない方が見ると正体不明な不思議な建物と感じることでしょう。



公文書館（正面入口から）

そんな公文書館ですが、実は県立施設の中では唯一の「アーカイブズ」です。「アーカイブズ」とは、組織または個人がその活動に伴って生み出す記録のうち、重要な歴史的公文書や古文書、私文書などを将来にわたって利用できるように保存して管理する施設のことです。また、広く一般に公開し利用されることにより、学びや研究の場を提供する施設でもあります。図書館や博物館と異なるところは、どなたでも重要な歴史的公文書や古文書などの実物を直接手に取って閲覧に供することができることです。公文書館では、貴重な歴史資料を後世に伝えていく重要性への理解の醸成と、資料や施設の更なる利用拡大のために、収蔵資料を使用した企画展示や各種講座も実施しています。このように、重要なミッションを遂行しつつも、なじみの薄い公文書館ですが、今後は、広く一般に知られ、近所の方はもとより、多くの方々に利用されるよう尽力してまいります。

（公文書館長　高野秀行）

展示のご案内

◆収蔵資料展示
【前期】続・神奈川の風景
10月24日（金）から11月16日（日）まで
【後期】高札の時代
11月21日（金）から12月21日（日）まで

◆企画展示
戦争とかながわ（仮）
1月23日（金）から3月29日（日）まで

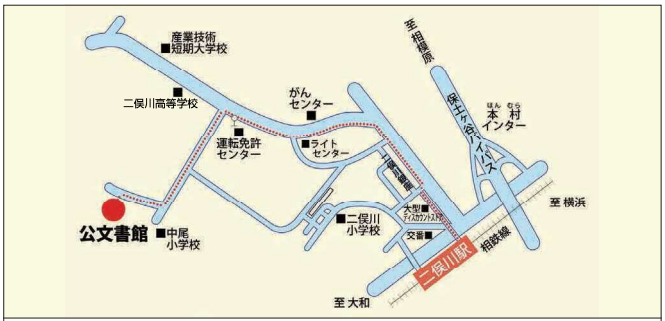
講座のご案内

◆アーカイブズ講座
11月2日（日）

◆古文書講座応用編
11月16・23・30日の各日曜日（全3回）

※詳細は当館ホームページでお知らせします。

公文書館へのアクセス



電車の場合　相鉄線「二俣川駅」下車、二俣川駅北口より徒歩17分
二俣川駅北口より相鉄バス「旭23運転免許センター循環二俣川駅北口」行きで「運転免許センター」停留所下車、徒歩3分
車の場合　「保土ヶ谷バイパス」本村インターから6分
※駐車スペースが少ないため、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

2ページのなぞなぞの答え：炭